



2026年5月8日

株式会社あいちフィナンシャルグループ

「2026年度新入社員の意識調査」の結果について

株式会社あいちフィナンシャルグループ（代表取締役社長 伊藤 行記）のグループ会社である株式会社栄町リサーチ&コンサルティング（代表取締役社長 伊藤 公二）は、「2026年度新入社員の意識調査」を実施しましたので、その結果についてお知らせいたします。

当社グループは本調査を通じて新入社員の考え方や意識の実態等を把握することで、人材育成に活用するとともに若年世代に向けたサービスの開発につなげてまいります。

記

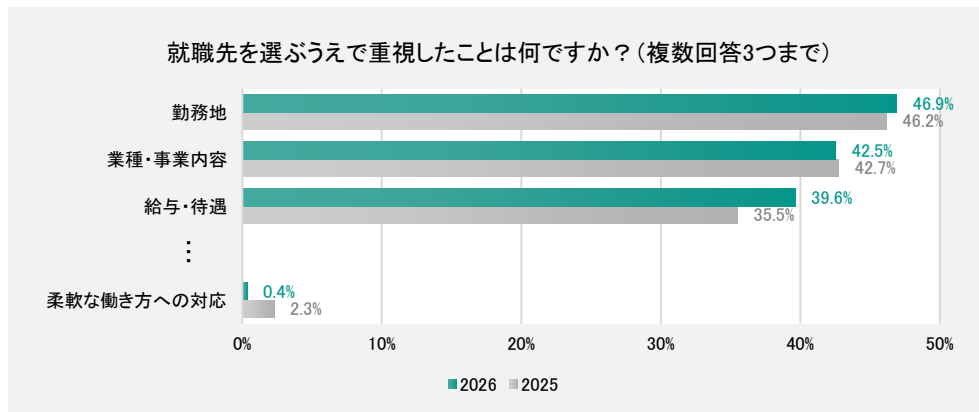
【実施要項】

| |
|--|
| 調査対象：栄町リサーチ&コンサルティング主催「新入社員セミナー」の参加者 あいち銀行新入行員 あいちフィナンシャルグループ傘下の AAST グループ新入社員 |
| 調査方法：WEB アンケートシステム（無記名方式） |
| 調査時期：2026年4月6日～2026年4月8日 |
| 回答数：275名 |

【調査結果（要旨）】

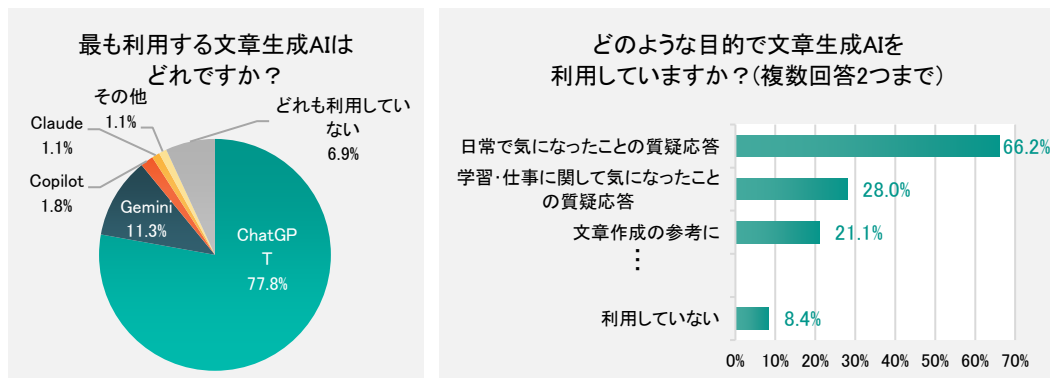
(1) 就職活動・今後の社会人生活について

- ・ 就職先選択において重視したことは「勤務地」が最も多く、情報収集手段として多く使われたのは「対面形式の説明会（合同含む）」と「就職情報サイト」でした。
- ・ 「コミュニケーション力」、「社会人としてのマナーや常識」、「業界に関する専門的なスキル・知識」を入社までに身につけた、または、今後身につけたいと考える新入社員が多く、これらが社会人生活において重要なスキル・知識と捉えられていることが伺えます。



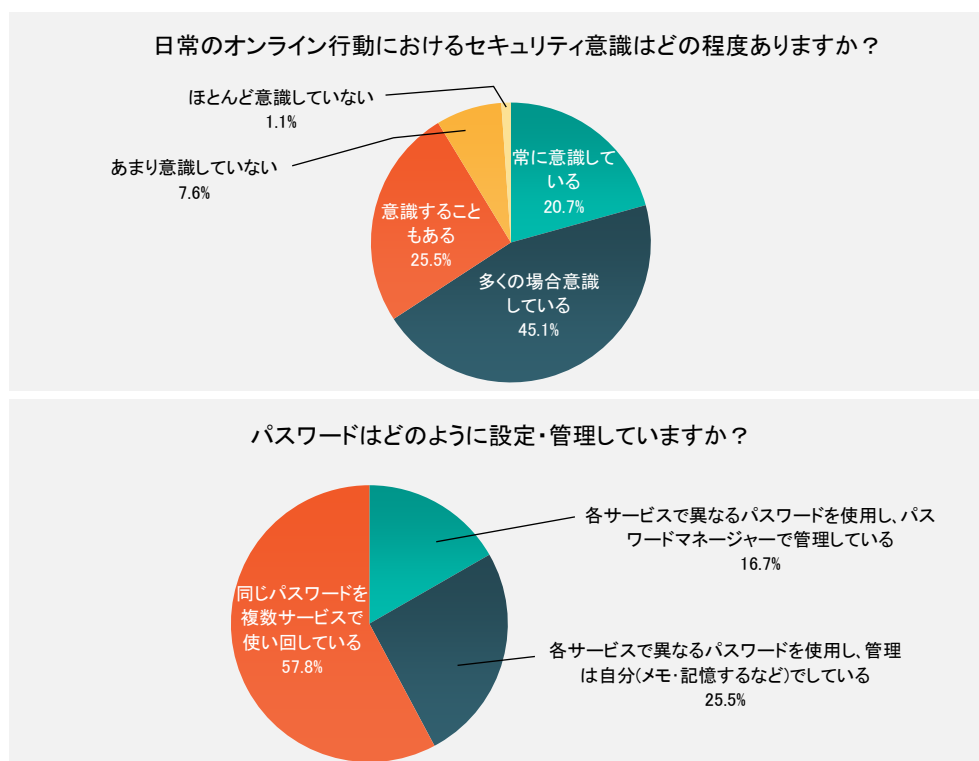
(2) 文章生成 AI の利用について

- ・ 最も利用されている文章生成 AI は「ChatGPT」で、利用目的は「日常で気になったことの質疑応答」が最多でした。
- ・ 利用にあたっては「回答の正確性」や「回答の根拠」に不安を感じている新入社員が多くみられました。
- ・ AI の発展による仕事への影響は「仕事が効率化されると思う」が最も多く、AI による生産性向上への期待感が現れる結果となりました。



(3) サイバーセキュリティについて

- ・ 新入社員のセキュリティ意識は全体的に高いものの、パスワードの設定は「同じパスワードを複数サービスで使い回している」が過半数を占め、高いセキュリティ意識が必ずしも行動に結びついていない実態が伺えます。
- ・ アカウント乗っ取りやクレジットカード不正利用の被害経験者も一定数おり、サイバー攻撃が身近な脅威となっていることが示される結果となりました。



※詳細は添付資料をご覧ください。

以 上

2026年度 新入社員の意識調査 結果



| | |
|-----------------------|------|
| 1. 調査概要 / 調査結果の概要 | P. 2 |
| 2. 就職活動・今後の社会人生活について | P. 3 |
| 3. 文章生成AIについて | P. 8 |
| 4. サイバーセキュリティについて | P.12 |
| 5. 新入社員が感じることや関心があること | P.17 |

- 本資料は、当社が実施したアンケート結果に基づき作成しておりますが、その正確性を保証するものではありません。
- 本資料に基づくお客様のいかなる判断、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いかねます。ご利用にあたっては、お客様ご自身の責任と判断においてご活用くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料の全部または一部を、当社の事前の許諾なく転載・複製などを行うことを禁じます。

調査概要

調査期間：2026年4月6日～8日

調査方法：WEBアンケートシステム(無記名方式)

調査対象：当社主催「新入社員セミナー」参加者、
あいち銀行新入行員 および あいちフィナンシャルグループ傘下のAASTグループ新入社員

回答数：275名 (うち、男性147名、女性125名、回答しない3名)
(うち、高校卒26名、高専・専門学校・短大卒29名、大学・大学院卒220名)

調査結果の概要

就職活動・今後の社会人生活について

就職先選択において重視したことは「勤務地」が最も多く、情報収集手段として多く使われたのは「対面形式の説明会(合同含む)」と「就職情報サイト」でした。また、「コミュニケーション力」、「社会人としてのマナーや常識」、「業界に関する専門的なスキル・知識」を入社までに身につけた、または、今後身につけたいと考える新入社員が多く、これらが社会人生活において重要なスキル・知識と捉えられていることが伺えます。

文章生成AIの利用について

最も利用されている文章生成AIは「ChatGPT」で、利用目的は「日常で気になったことの質疑応答」が最多でした。利用にあたっては「回答の正確性」や「回答の根拠」に不安を感じている新入社員が多くみられました。AIの発展による仕事への影響は「仕事が効率化されると思う」が最も多く、AIによる生産性向上への期待感が現れる結果となりました。

サイバーセキュリティについて

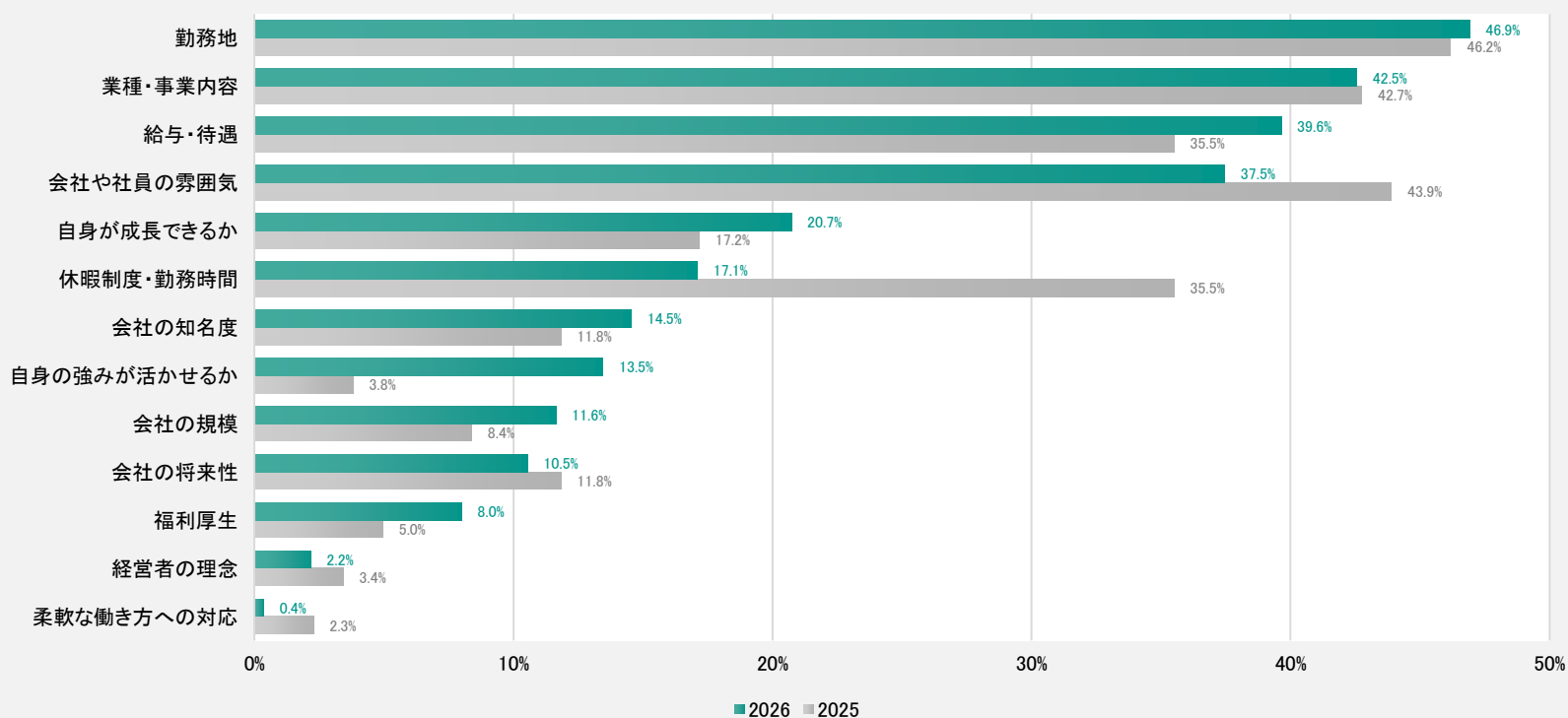
新入社員のセキュリティ意識は全体的に高いものの、パスワードの設定は「同じパスワードを複数サービスで使い回している」が過半数を占め、高いセキュリティ意識が必ずしも行動に結びついていない実態が伺えます。アカウント乗っ取りやクレジットカード不正利用の被害経験者も一定数おり、サイバー攻撃が身近な脅威となっていることが示される結果となりました。

就職先を選ぶうえで重視したことについて

就職先を選ぶうえで重視したことは、「勤務地」が46.9%で最も高く、次いで「業種・事業内容」が42.5%、「給与・待遇」が39.6%という結果でした。一方、あまり重視されていない項目としては、「柔軟な働き方への対応」が0.4%と最も低く、次いで「経営者の理念」が2.2%、「福利厚生」が8.0%という結果でした。

2025年度調査結果と比較すると、「自身が成長できるか」や「自身の強みが活かせるか」が増加している一方、「休暇制度・勤務時間」や「柔軟な働き方への対応」は減少しています。これらの結果から、新入社員はキャリアアップや仕事を通じた自己実現を重視する傾向が強まっており、ワークライフバランスへの意識は相対的に低下していると伺えます。

就職先を選ぶうえで重視したことは何ですか？（複数回答3つまで）

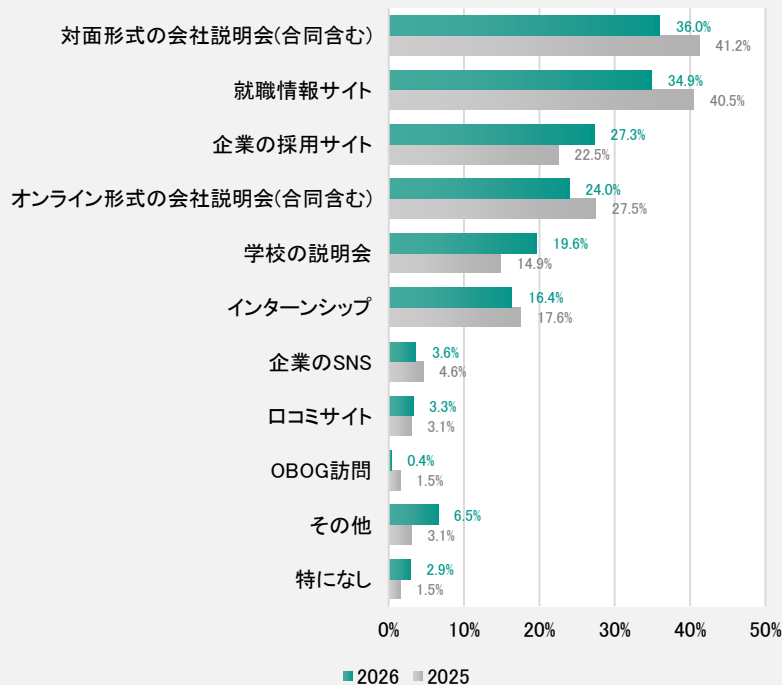


就職活動における情報収集について

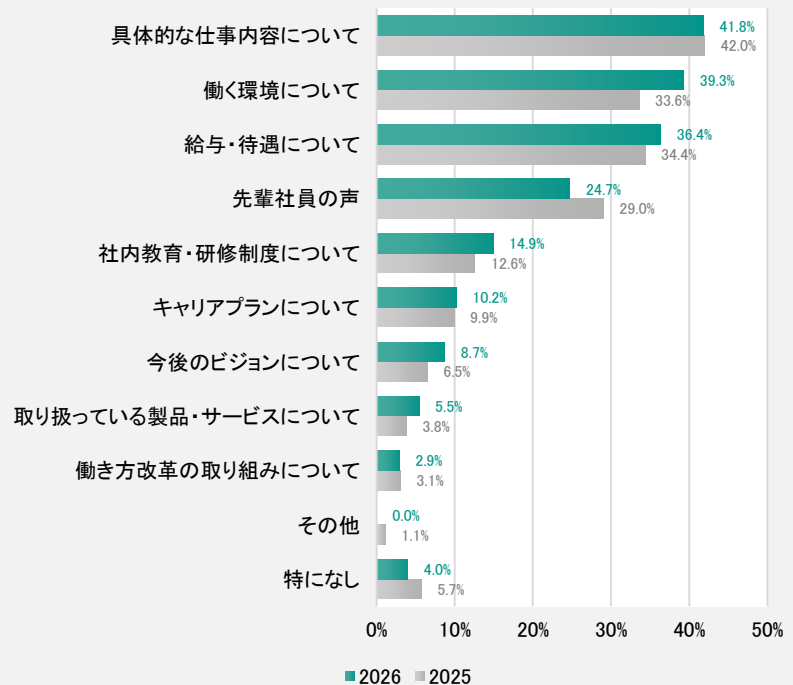
就職活動における情報収集方法は、「対面形式の会社説明会(合同含む)」が36.0%で最も高く、次いで「就職情報サイト」が34.9%、「企業の採用サイト」が27.3%という結果でした。「その他」には、親や先輩などの知人、学校に届く求人票、ハローワーク、就職エージェントなどがあげられました。

もっと知りたかった企業の情報は、「具体的な仕事内容について」が41.8%と最も高く、次いで「働く環境について」が39.3%、「給与・待遇について」が36.4%でした。

どのような方法で情報収集をしましたか？
(複数回答2つまで)



もっと知りたかった企業の情報は何ですか？
(複数回答2つまで)



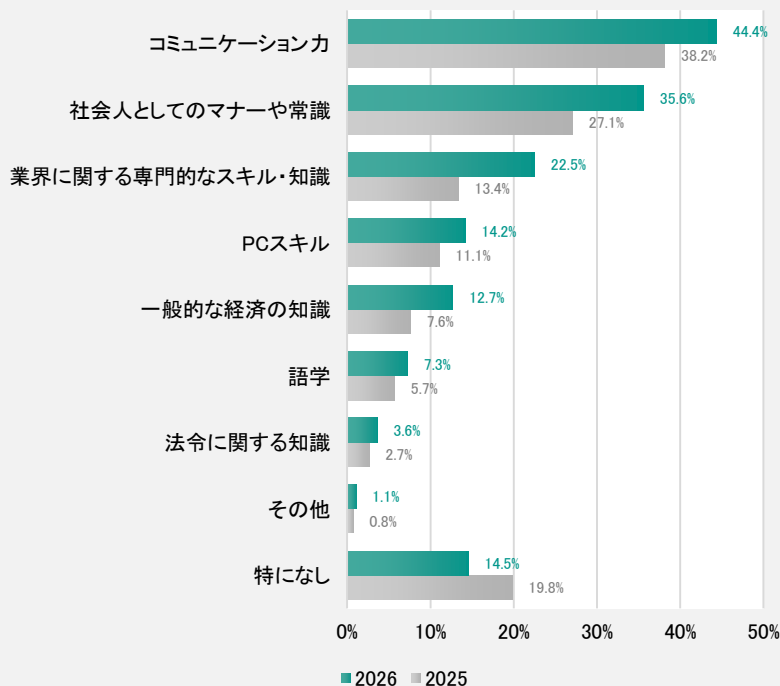
スキル・知識について

入社までに身につけたスキル・知識は、「コミュニケーション力」が44.4%で最も高く、次いで「社会人としてのマナーや常識」が35.6%、「業界に関する専門的なスキル・知識」が22.5%でした。

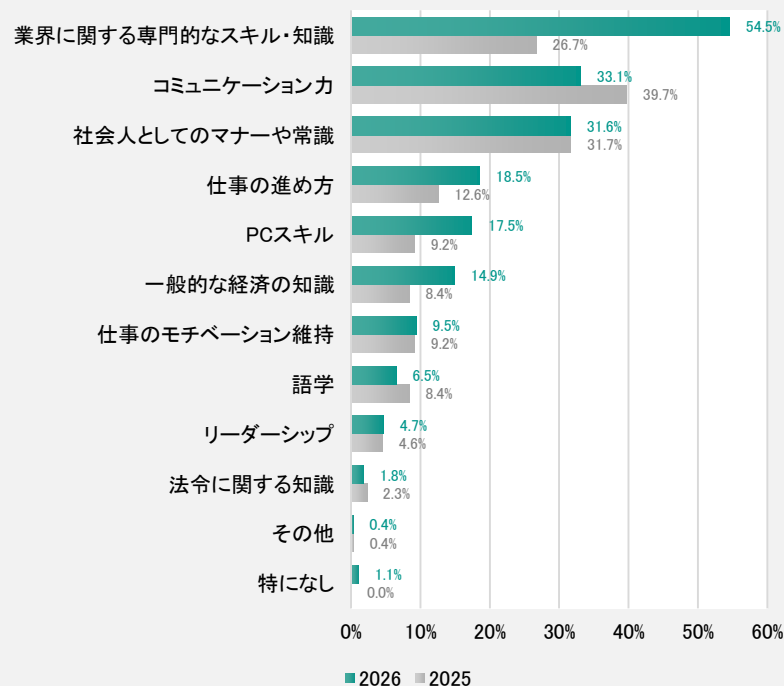
今後身につけたいスキル・知識は、「業界に関する専門的なスキル・知識」が54.5%と最も高く、次いで「コミュニケーション力」が33.1%、「社会人としてのマナーや常識」が31.6%でした。

2025年度調査結果と比較すると、「業界に関する専門的なスキル・知識」は、入社前に身につけたスキル・知識としてしても、今後身につけたいスキル・知識としても大きく増加しており、専門性の向上に意欲的な新入社員が増加していることが伺えます。

入社までに身につけたスキル・知識は何ですか？
(複数回答2つまで)



今後身につけたいスキル・知識は何ですか？
(複数回答2つまで)

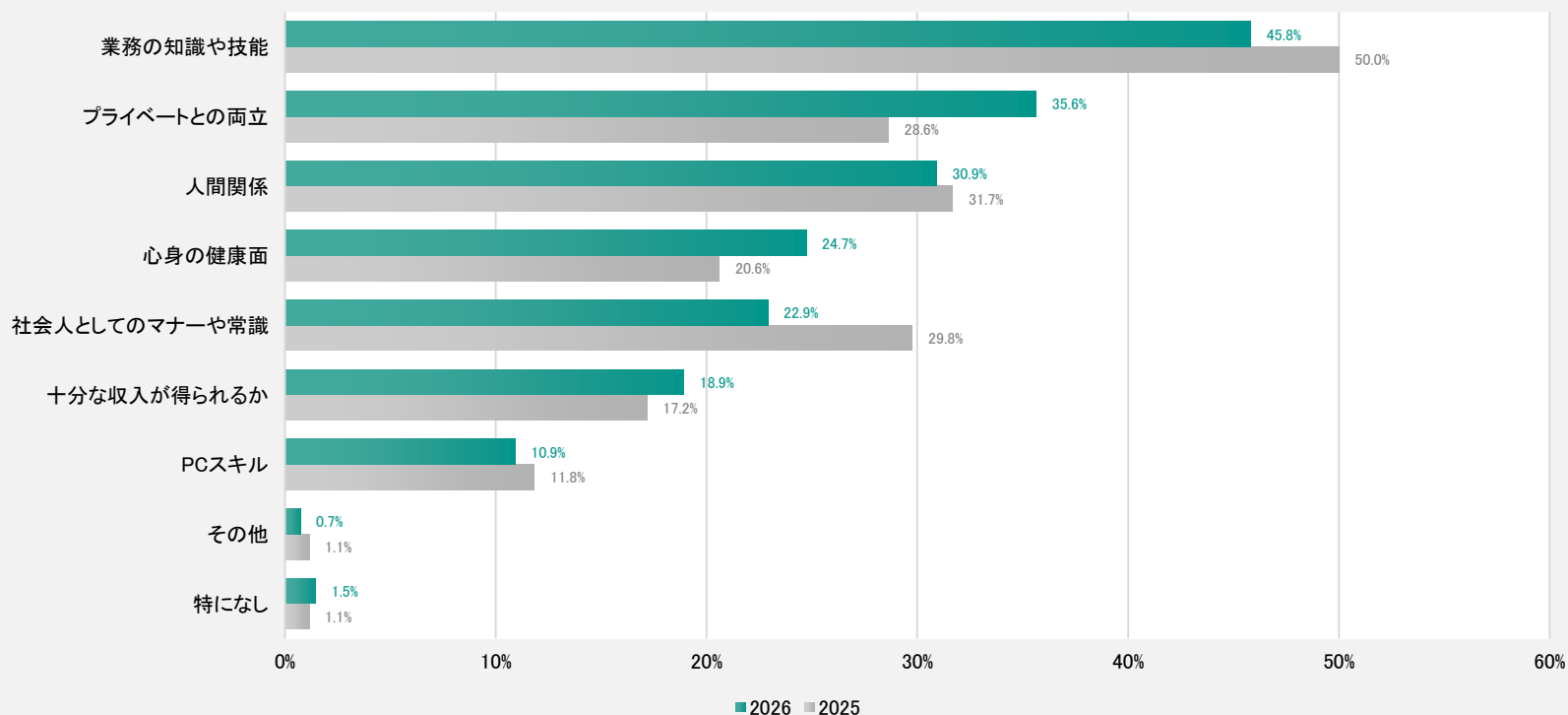


社会人生活における不安要素について

今後の社会人生活で不安に感じることは、「業務の知識や技能」が45.8%で最も高く、次いで「プライベートとの両立」が35.6%、「人間関係」が30.9%でした。

2025年度調査結果と比較すると、「社会人としてのマナーや常識」が減少しています。入社までに身につけたスキル・知識として「社会人としてのマナーや常識」が増加していること(P.5参照)からも、入社前にマナーや常識を積極的に学習した結果、社会人としての基本的な振る舞いに対する不安が軽減されている新入社員が増加していることが伺えます。

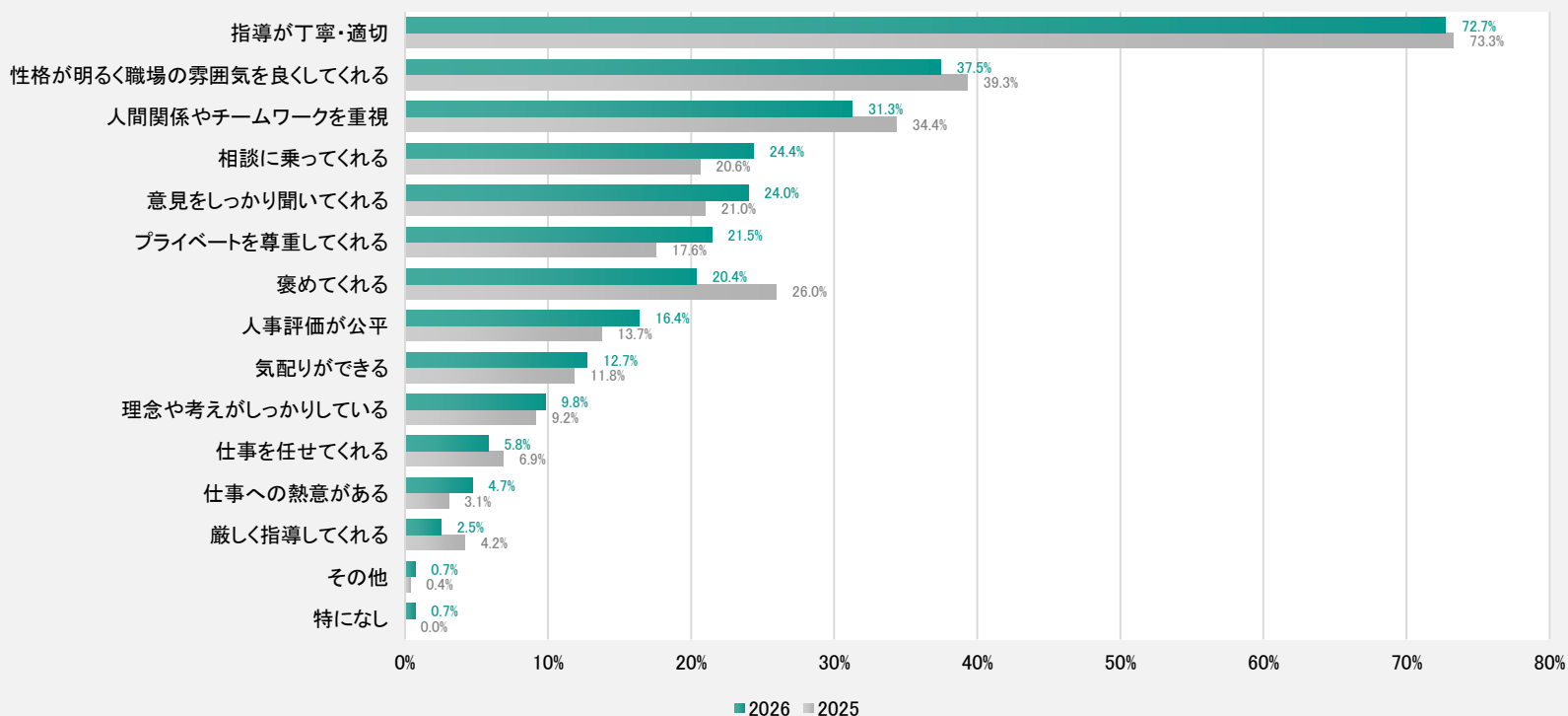
今後の社会人生活で不安に感じることは何ですか？（複数回答2つまで）



理想の上司・先輩像について

理想的だと思う上司・先輩像は、「指導が丁寧・適切」が72.7%で最も高く、次いで「性格が明るく職場の雰囲気を良くしてくれる」が37.5%、「人間関係やチームワークを重視」が31.3%という結果でした。一方、あまり重視されていない項目としては、「厳しく指導してくれる」が2.5%と最も低く、次いで「仕事への熱意がある」が4.7%、「仕事を任せてくれる」が5.8%という結果でした。

あなたが理想的だと思うのはどのような上司や先輩ですか？（複数回答3つまで）

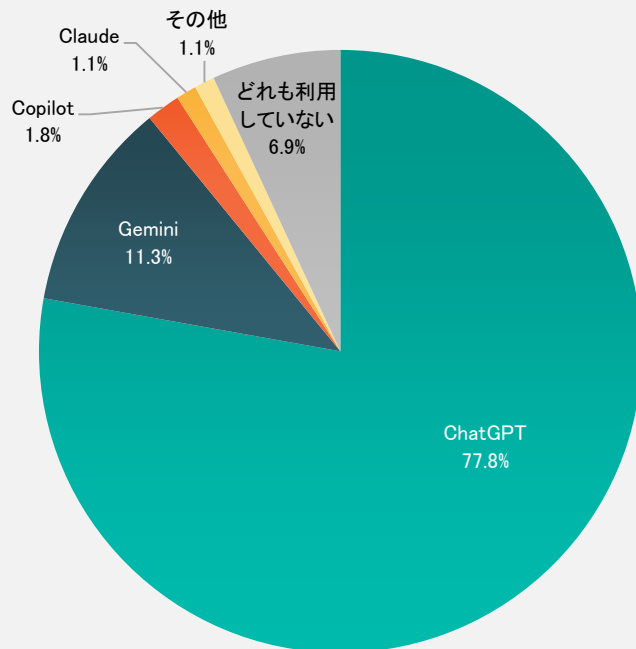


利用する文章生成AI・利用頻度について

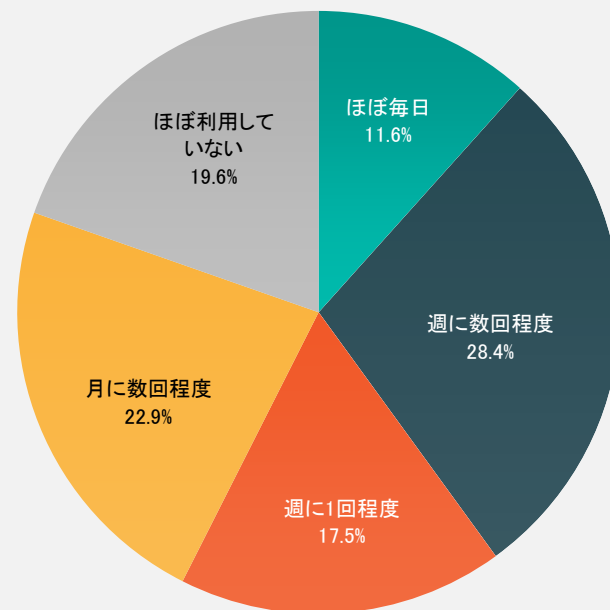
最も利用する文章生成AIは、「ChatGPT」が77.8%と非常に高いシェアを占めており、次いで「Gemini」が11.3%でした。

文章生成AIの利用頻度は、「週に数回程度」が28.4%で最も多く、次いで「月に数回程度」が22.9%でした。「ほぼ毎日」利用している人も11.6%おり、文章生成AIが日常的に活用されていることが伺えます。

最も利用する文章生成AIはどれですか？



どれくらいの頻度で利用していますか？

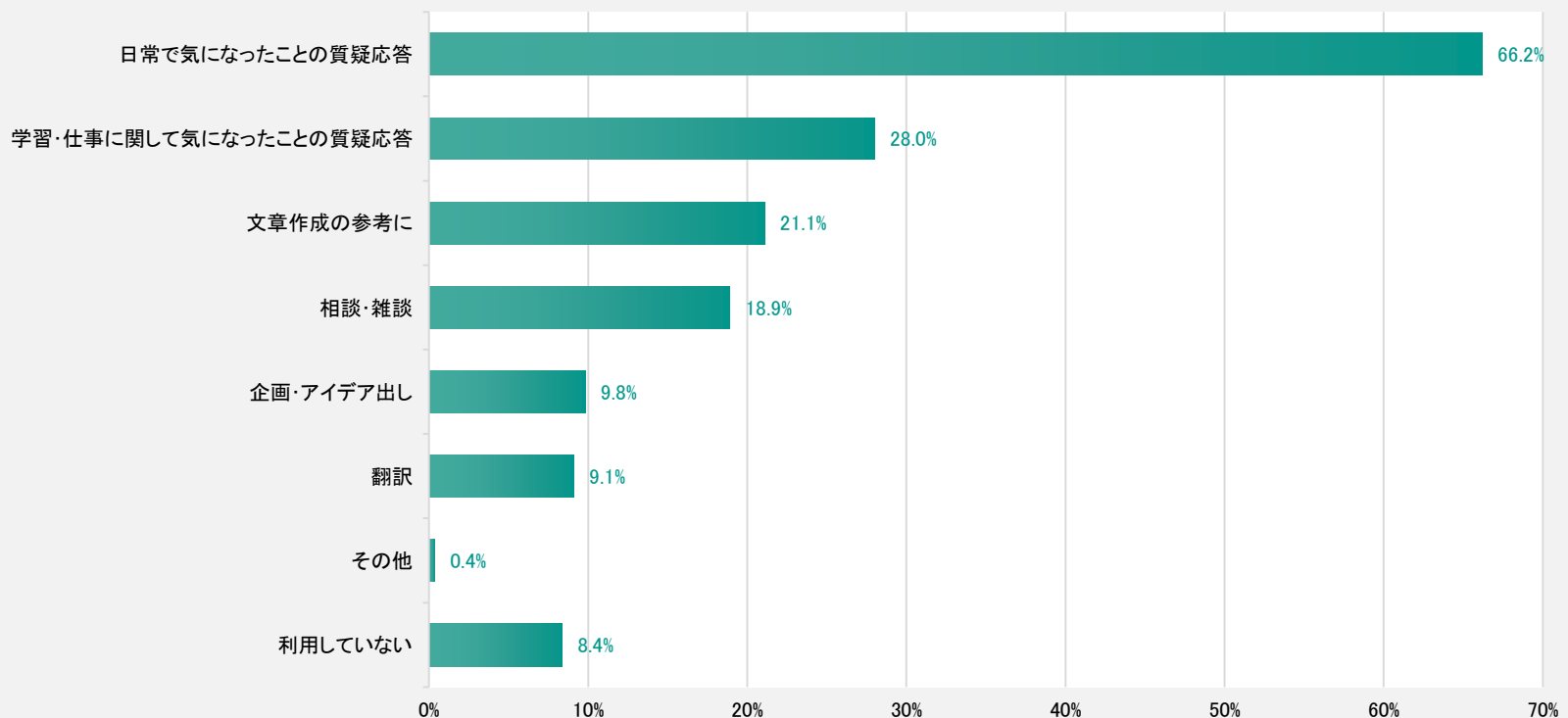


利用する目的について

文章生成AIの利用目的は、「日常で気になったことの質疑応答」が66.2%と最も高く、新入社員が情報検索や疑問解決の手段としてAIを積極的に活用していることが伺えます。次いで「学習・仕事に関して気になったことの質疑応答」が28.0%で、学業や業務に関連する専門的な知識の習得にもAIが活用されていることが伺えます。その他にも、「相談・雑談」が18.9%、「企画・アイデア出し」が9.8%と、気分転換としての利用やクリエイティブな用途も一定数見られます。

これらの結果から、文章生成AIは単なる情報検索ツールに留まらず、学習、仕事、日常生活における多様なニーズに応える多機能なアシスタントとして、新入社員の生活に浸透していることが伺えます。

どのような目的で文章生成AIを利用していますか？(複数回答2つまで)

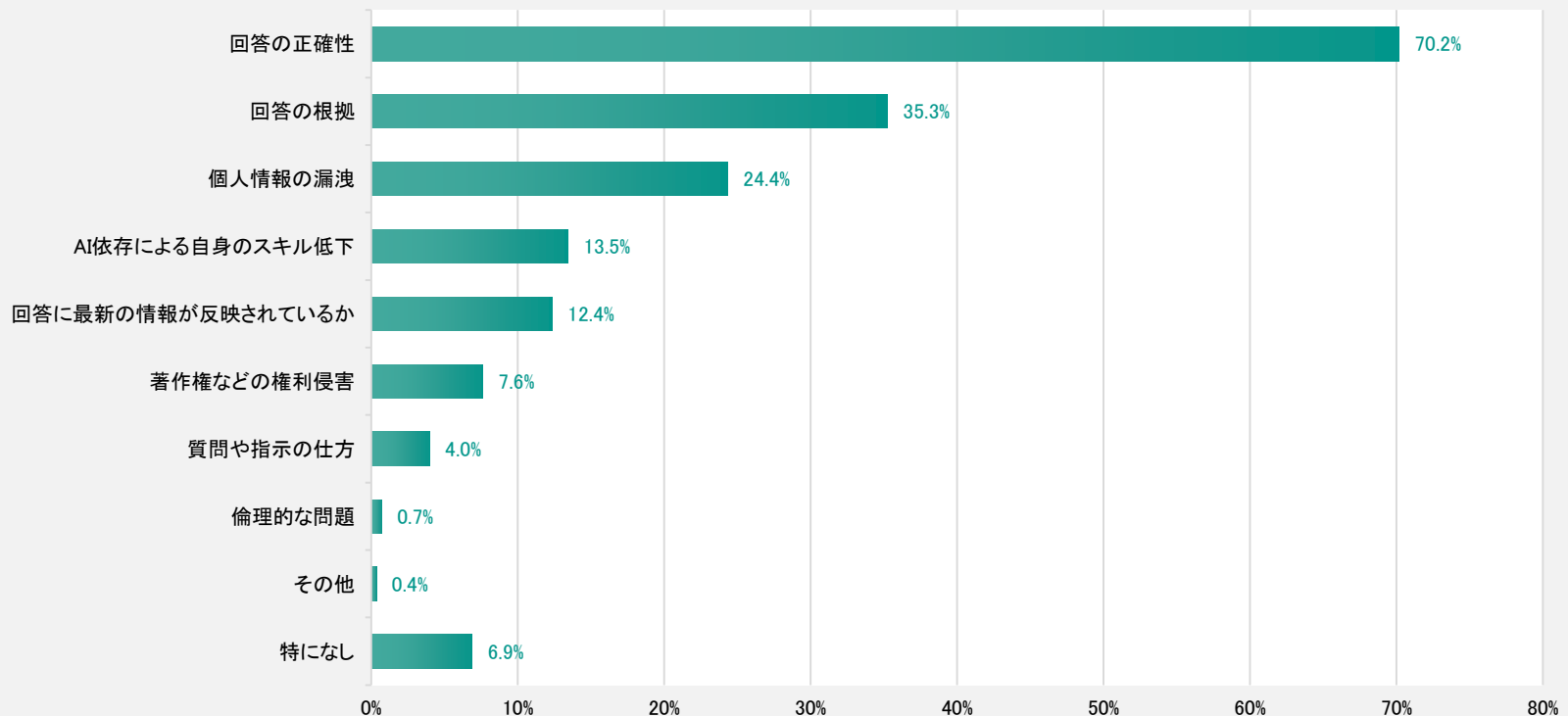


利用時の不安・困難を感じた点について

AIを利用する際に不安を感じたことや困ったことは、「回答の正確性」が70.2%と最も高く、次いで「回答の根拠」が35.3%でした。AIが生成する情報が常に正しいとは限らないという認識が広く共有されており、情報の信頼性に対する懸念が大きいことを示しています。3位には「個人情報の漏洩」が24.4%でランクインしており、セキュリティリスクについても一定程度の懸念が存在していると言えます。

これらの結果は、AIの利便性を享受しつつも、その限界やリスクを認識し、慎重に利用しようとする新入社員の姿勢を反映していると考えられます。

AIを利用する際に不安を感じたことや困ったことはどれですか？(複数回答2つまで)

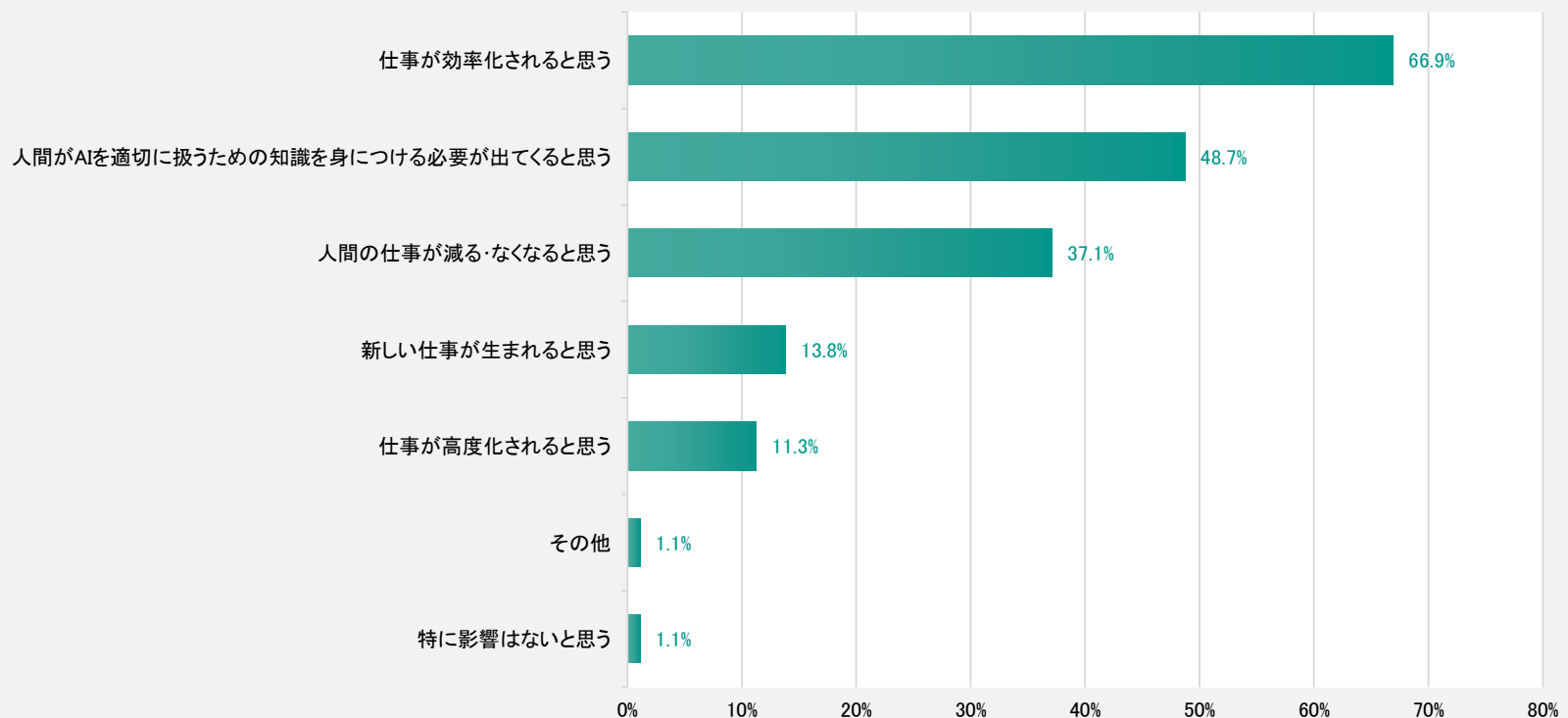


AIの発展が仕事に与える影響について

AIの発展が今後世の中の仕事に与える影響は、「仕事が効率化されると思う」が66.9%と最も高く、新入社員の多くがAIによる業務効率化の可能性を強く認識していることが伺えます。次いで「人間がAIを適切に扱うための知識を身につける必要が出てくると思う」が48.7%と高く、AIを使いこなすためのスキル習得の重要性を認識していることが伺えます。3位には「人間の仕事が減る・なくなると思う」が37.1%でランクインしており、AIの進化が雇用に与える影響について懸念を抱いている新入社員も少なくないことが分かります。一方で、「新しい仕事生まれると思う」も13.8%あり、AIによって新たな職種や産業が創出される可能性も認識されています。

これらの結果から、新入社員はAIの発展が仕事にもたらす多面的な影響を認識していることが伺えます。

AIの発展によって、今後世の中の仕事にどのような影響があると思いますか？(複数回答2つまで)



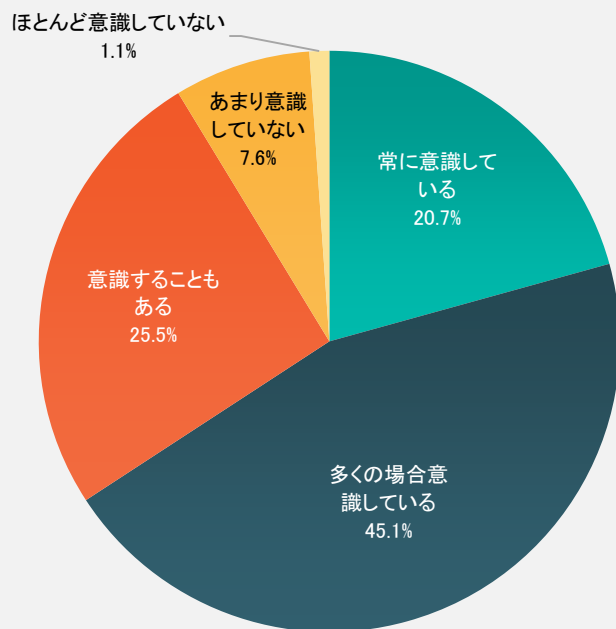
セキュリティ意識について

日常のオンライン行動におけるセキュリティ意識は、「多くの場合意識している」が45.1%で最も高く、次いで「意識することもある」が25.5%、「常に意識している」が20.7%でした。全体的にセキュリティ意識は高い傾向にあると言えます。

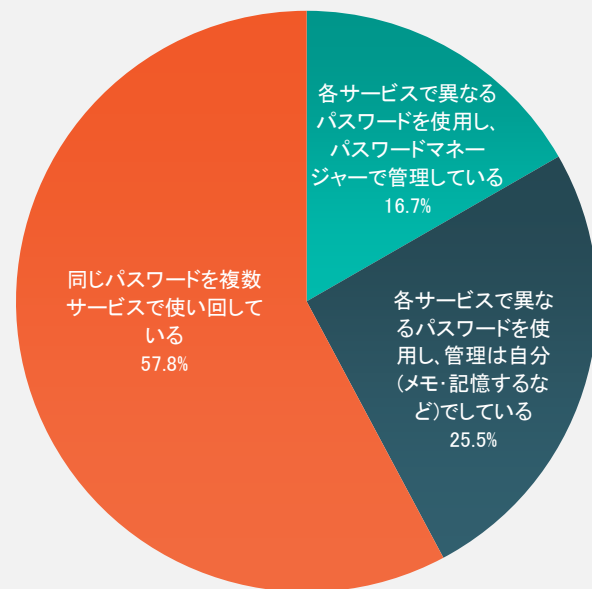
上記の通り、セキュリティ意識は高い傾向にあるものの、パスワードの設定・管理方法においては「同じパスワードを複数サービスで使い回している」が57.8%と過半数を占めています。

これらの結果から、高いセキュリティ意識が必ずしも行動に結びついていない実態、あるいは利便性を重視する傾向が伺えます。

日常のオンライン行動における
セキュリティ意識はどの程度ありますか？



パスワードはどのように
設定・管理していますか？

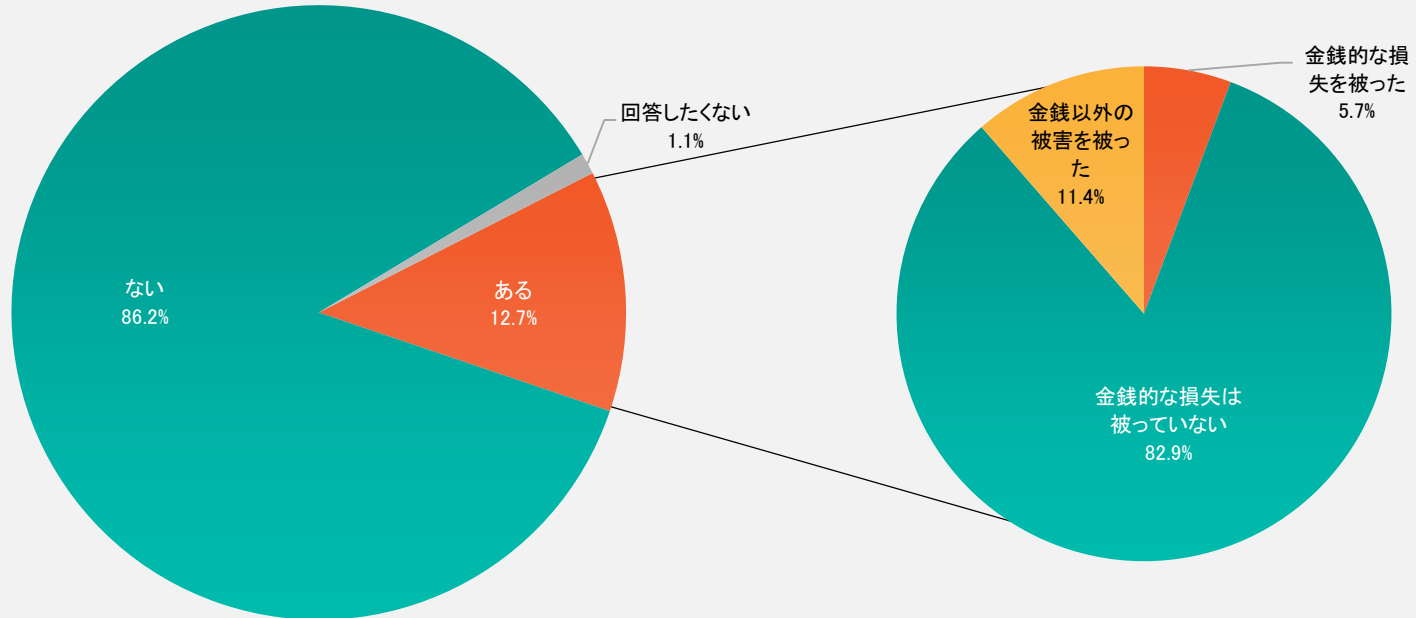


アカウントの乗っ取り被害について

アカウントの乗っ取り被害にあったことが「ある」人は12.7%で、サイバー攻撃が身近な脅威となっていることを示しています。

アカウントの乗っ取り被害にあったことが「ある」人のうち、「金銭的な損失は被っていない」が82.9%と大半を占めましたが、「金銭的な損失を被った」人も5.7%存在しました。また、「金銭以外の被害を被った」人も11.4%おり、精神的な苦痛や時間的損失など、金銭以外の被害も発生していることが明らかになりました。

アカウントの乗っ取り被害にあったことがありますか？

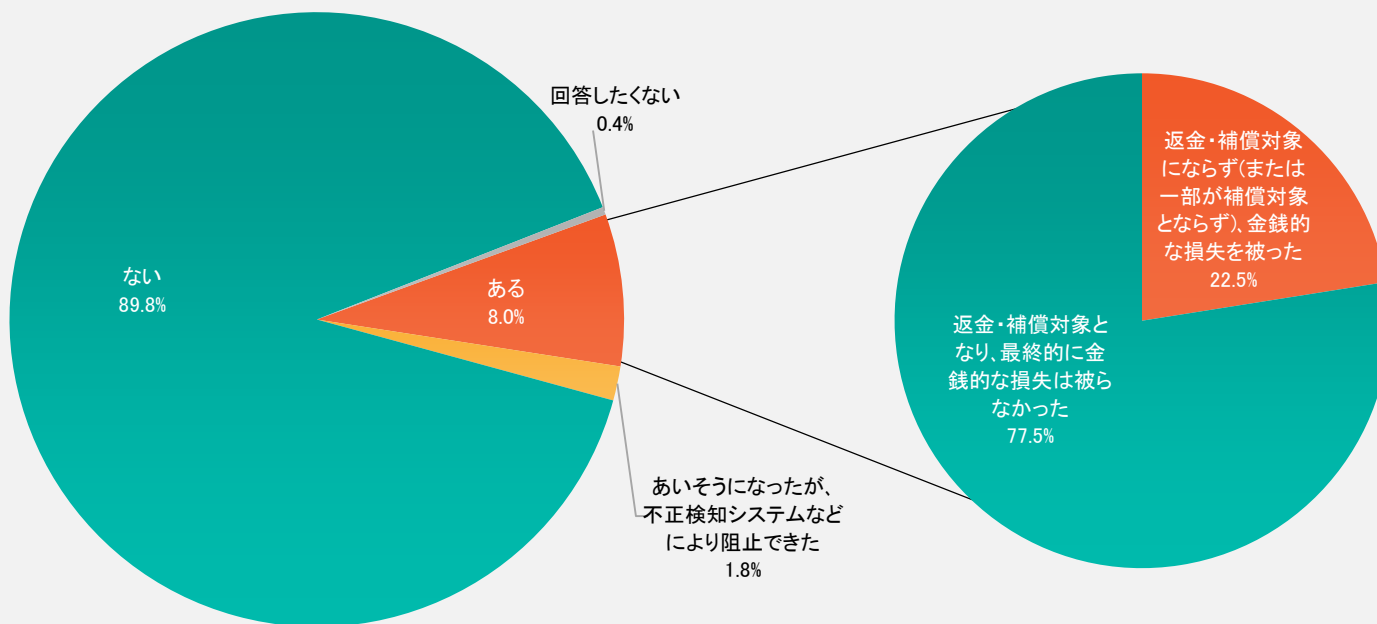


クレジットカードの不正利用被害について

クレジットカードの不正利用被害にあったことが「ある」人は8.0%で、オンラインショッピングの普及に伴い、不正利用のリスクが高まっている現状を反映していると考えられます。

クレジットカードの不正利用被害にあったことが「ある」人のうち、「返金・補償対象となり、最終的に金銭的な損失は被らなかった」が77.5%と多くを占め、クレジットカード会社の補償制度が機能していることが伺えます。しかし、「返金・補償対象にならず(または一部が補償対象とならず)、金銭的な損失を被った」人も22.5%存在し、不正利用によって実際に金銭的な被害を受けているケースも少なくないことが明らかになりました。

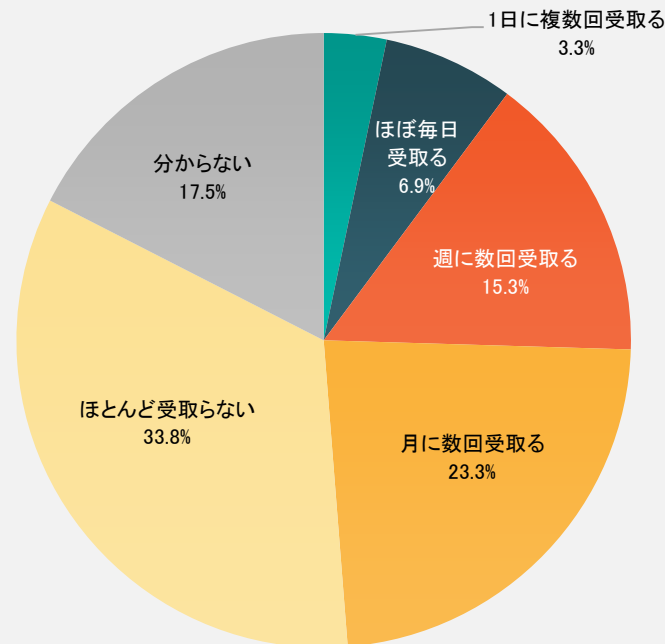
クレジットカードの不正利用被害にあったことがありますか？



フィッシング/スパムメールの受信頻度について

フィッシング/スパムメールの受け取り頻度は、「ほとんど受け取らない」が33.8%で最も多く、次いで「月に数回受け取る」が23.3%でした。一方、「ほぼ毎日受け取る」人も6.9%、「1日に複数回受け取る」人も3.3%おり、全体の約1割の新入社員は日常的に大量のフィッシング/スパムメールに晒されている実態が明らかになりました。

フィッシング/スパムメールをどれくらいの頻度で受け取りますか？



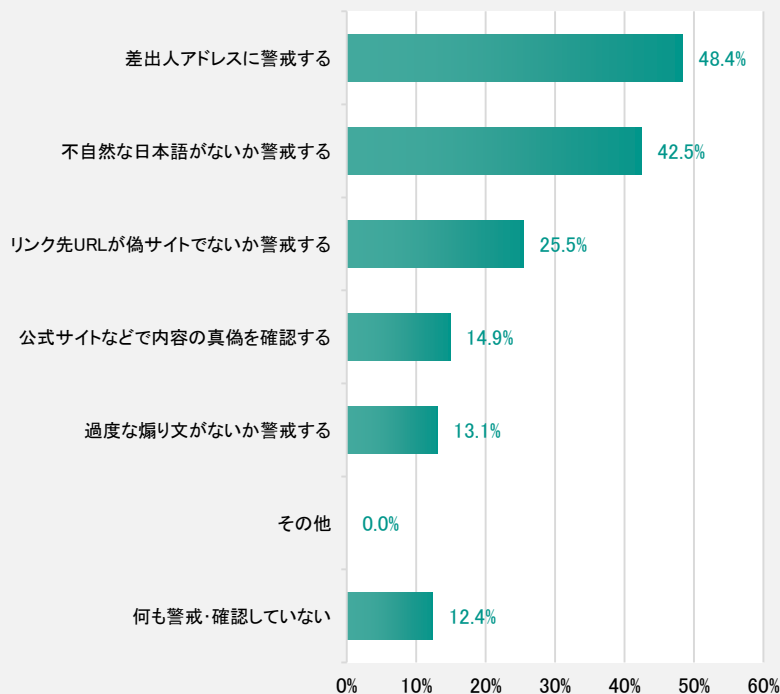
フィッシング/スパムメールの見分け方・受信時の対応について

フィッシング/スパムメールの見分け方としては、「差出人アドレスに警戒する」が48.4%と最も高く、メールの送信元を注意深く確認している新入社員が多いことが分かります。次いで「不自然な日本語がないか警戒する」が42.5%でした。

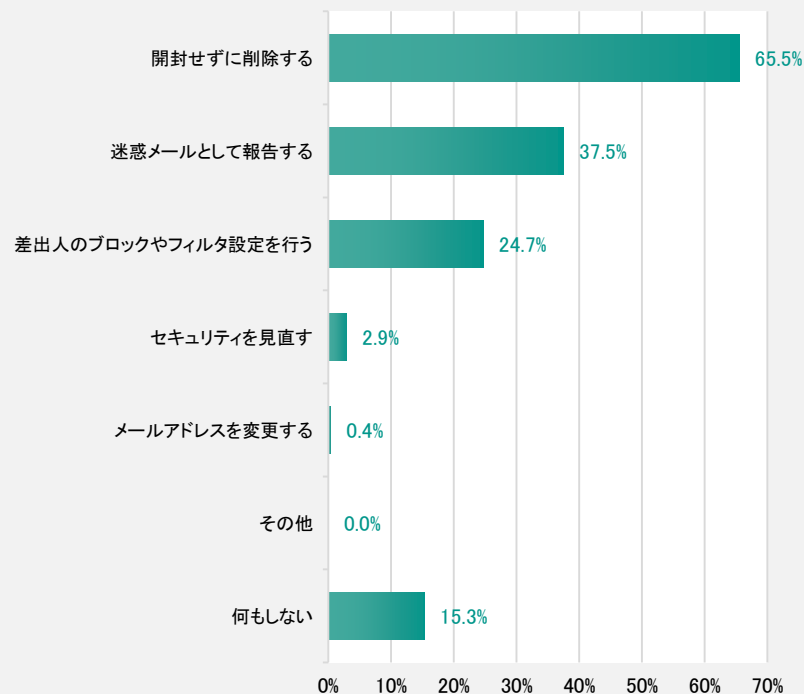
フィッシング/スパムメールを受け取った場合の対応としては、「開封せずに削除する」が65.5%と最も多く、多くの新入社員が不審なメールを開封せずに処理していることが分かります。次いで「迷惑メールとして報告する」が37.5%でした。

一方、フィッシング/スパムメールの見分け方として「何も警戒・確認していない」が12.4%、フィッシング/スパムメールを受け取った場合の対応として「何もしない」が15.3%と、適切な対応が取られていないケースも一定数存在することが伺えます。

フィッシング/スパムメールをどのように見分けていますか？（複数回答2つまで）



フィッシング/スパムメールを受け取ったら、どのような対応をしますか？（複数回答2つまで）



社会人になって感じることや関心があることについて

社会人になって感じることや関心があることを自由記述で求めたところ、「責任が重い」などという社会人としてのプレッシャーが強く、不安の声が多くあがりました。一方で、「たくさんのことを経験できるのが楽しみ」などといった前向きな声も多くあがっています。また、「マナーや礼儀」や「資格」の勉強に励もうとする声もあがりました。

関心があることとしては、「経済・政治ニュース」などが多くあがりました。また、「給与の使い道」や「投資」など、自身の資産形成に係ることへの関心の声も多くあがりました。

感じること

- 責任感の重みを感じる。
- 業務を覚えられるかが不安。
- 分からないことが分からない状態。
- 漠然とした不安と緊張感が常にある。
- これからたくさんのことを経験できると思うと楽しみ。
- 社会経験を通して多くの技術や知識を身につけたい。
- 自分がより成長できると思う。
- いろいろな資格取得にチャレンジしてみたい。
- 生活リズムが整ってメリハリができた。
- 生活や日中の過ごし方など、生活が一変した。
- 人間関係を構築するのが難しい。
- とにかく時間がない。
- 資格取得や勉強と日々の業務が両立できるか不安。
- マナーや礼儀を学ぶことは、自分にとっても相手にとっても必要なことだと思う。

関心があること

- ニュースを頻繁に見るようになった。
- 日本経済について関心を持っている。
- 政治について関心を持つようになった。
- 世の中の情勢について意識するようになった。
- 物価高の動向が気になる。
- 先輩社員の働き方を詳しく知りたい。
- 他の人の給与や働き方に関心を持ち始めた。
- AIによる仕事への影響が気になる。
- 今後のライフプランをどのように構築していくか。
- 先輩社員が給与をどのように使っているか。
- 投資に興味がある。
- 健康管理・メンタルヘルスに関心を持ち始めた。